

# 農林水産政策審議会 第3回農林水産企画部会 議事要旨

I 開催日時 令和6年11月28日(木) 14:00～16:30

II 場所 兵庫県庁3号館7階中会議室

## III 出席者

### 1 委員

相田 欽司 仮屋漁業協同組合 代表理事組合長  
井藤 絵美 チームしんすけ農場  
大山 憲二 神戸大学大学院農学研究科 教授  
辻村 英之 京都大学大学院農学研究科 教授  
都藤 元彦 株式会社都藤商店 専務取締役  
中塚 雅也 神戸大学大学院農学研究科 教授  
中山 晋吾 兵庫県農業経営士会 会長  
船越 照平 一般社団法人兵庫県食品産業協会 会長  
堀 豊 吉備国際大学農学部 教授

### 2 県

呉田農林水産部次長、菅村農林水産部次長  
ほか県農林水産部、環境部職員

## IV 議事次第

### 1 開会

### 2 あいさつ

### 3 議事

(1) ひょうごみどり白書2024について

(2) 「ひょうご農林水産ビジョン2030」の現状と今後の見直しの方向性について  
「資料2」「資料3」により説明

〔 各委員から意見聴取(別紙「主な意見」参照) 〕

### 4 その他

### 5 閉会

## 主な意見

### 1 ひょうごみどり白書 2024 について

**委員** 2030年の目標において色々な項目が立てられているが、成果指標の見直しはどんなスケジュールなのか。

**事務局** ビジョンの見直しと併せて成果指標の点検、見直しを行う。本年度はビジョンの骨格についてご審議いただいているが、来年度、成果指標について諮る予定。

### 2 アンケート・現地調査について

**委員** アンケートについて、行政はすべての分野に回答しているが、各団体は団体の専門分野にだけ回答しているのか。母数について教えてほしい。

**事務局** 農業分野については農協などの農業関係団体に依頼しており、畜産がある農協は畜産分野にも回答いただいている。市町についても同様に、管内に畜産、水産などがある市町には回答いただいている。各団体に同じアンケートを渡しているが、該当しない分野は回答されていない。

**委員** 誰が回答しているのかが分かりにくいので、数字が独り歩きしないよう留意してほしい。

**委員** 答える人によって考え方も違うと思うが、水産業の場合は「水産物のブランド化が進んでいる」という項目に69%が「そう思う」「ややそう思う」と回答している。おそらく販路を確保しているから意識していないのではないかと思う。一方で、畜産分野は「畜産物のブランド化は進んでいる」という項目に71%が「そう思う」「ややそう思う」と回答されているにも関わらず、「国内外での新たな販路開拓ができています」「そう思う」「ややそう思う」と回答しているのは46%で少し変に思う。回答された方がどのような思いで回答されたかが見えにくい。アンケートをする際はそのあたりも配慮してほしい。

**委員** アンケート結果、「そう思う」「ややそう思う」という回答が多い上位の項目はどの分野も問題ないと見られているのでは。農業では、下位項目に「農業経営に要する労働力は十分確保できている(9%)」「第三者継承を含めた事業継承が進んでいる(9%)」がある。各分野とも、「そう思う」「ややそう思う」と回答されたのが10%以下の項目を重点的に進め、少しでも上に上げていく方策が必要なのではないか。

**委員** 「地域における地産地消が進んでいる」という設問に対して、農業分野においては82%、消費分野においては68%と高評価な一方、「10年後を見据え、特に推進すべきと考える施策について」にも「地産地消」が両分野の上位に入っている。成果は評価しているが、もっと進めていくべきということか。

**委員** 何をもって進んでいると評価されているのか、少し補足をお願いしたい。

**事務局** 実際にはアンケート項目への評価だけではなく、コメントもいただいている。地域内で直売所が設置され地元の農産物が買える環境が整備されている点や、スーパーでも地場産コーナーが設置されているなどの点で、地産地消が一定進んでいるという評価になったと思う。一方で、年間を通して入手できない場合もあるため、より生産量、流通量を充実させることが求められているのではないかと考えている。

**委員** 参考資料P4の右下にコメントが書かれている。オレンジ色の「ややそう思う」

というのが多かった。「進んでいる」という評価自体も難しい。元々低い状態から良くなれば進んでいるとも受け取れるが、流通量を客観的な数字で見ると進んでいるとは言えないと思う。そのような点も含めて、総合的に判断したい。

**委員** P5の「豊かな海の再生に向けた適正な栄養塩管理の取組が進んでいる」という点、取組自体は確かに進んでいるが十分ではない。大阪湾でも危機的状況に陥りだしている。「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合は2番目の評価だったが、「10年後を見据え、特に推進すべきと考える施策について」には「豊かな海の再生」と「栄養塩管理」が最上位に入っており、もう一步進んでやっていかないと待ったなしの状況であることはみなさまにご理解いただきたい。

### 3 ビジョン見直しの方向性について

**委員** 資料2のP2「推進項目13 県民への農林水産物の安定供給と県産県消の推進」において、「県産県消」と「県民への農林水産物の安定供給」が併記されているのはなぜか。県民への農林水産物の安定供給は生産面のような気がするが。

**事務局** 現行のビジョンでは、「県民への農林水産物の安定供給」は「卸売市場を通じた安定供給の確保」という流通面での供給を指しているため、併記している。大項目としては、「卸売市場を通じた安定供給の確保」「県産県消の推進」「食品に対する消費者の信頼の確保」という3つの推進方策を統合して「県民への農林水産物の安定供給と県産県消の推進」としている。今後どうしていくかは、ビジョン見直しの中で検討していきたい。

**委員** 農業経営士会、女性農漁業士会の合同研修会が養父市と朝来市で行われた。養父市大屋町でも空きハウスが出てきている。岩津ネギは九条ネギよりも高評価と聞き、直売所での売り上げもいい。アンケートの結果にもあるように、担い手不足が深刻なので、なんとかならないかと思っている。

**委員** 畜産分野も「畜産物のブランド化は進んでいる」の「そう思う」「ややそう思う」が71%と評価されているが、一方で「10年後を見据え、特に推進すべきと考える施策について」にも「ブランド化の推進」が入っている。特定のブランド化が先行して進んでいる点が表れているのだろうと考えており、文面だけで「ブランド化が進んでいる」と評価してはいけないことは認識すべきと思う。議事(1)「ひょうごみどり白書2024について」のとおりスマート農業の利用面積は拡大しているという中で、P2の10番、「スマート農業技術の活用により農業経営改善が進んでいる」は24%の評価。面積は増えているが経営改善にはまだ繋がっていないということなのか、色々な面をリンクさせて評価していかないといけないのではと感じた。

**委員** 農林水産業に共通する課題、例えば担い手不足やスマート化などの項目は、一度横串を通して抽出して、農林水産全体としての提言としてビジョンに入れることはできないか。農林水産という枠組みで予算組みをするならば、分野全体の説得力を増した方が、第三者が見たときに分かりやすいと思う。アンケート結果で「そう思う」「ややそう思う」が25%以下の項目などに横串を入れて、一つにまとめて農林水産全体の課題として冒頭に持ってこられないかと思った。

**委員** 栄養塩の管理は第1の問題だと思う。2番目の問題としては担い手確保、3番目の問題としてはマリンツーリズム、この3つの柱を中心に進めるべきと感じた。

**委員** どの分野も担い手の確保が問題になっていると思うが、10年後担い手になるのはまだ10代の子どもたち。以前にも話したが、授業など教育の中に農業を組み込んで

raitai.

**委員** アンケートは関係団体に回答を求めることが多いが、今後は他分野から農林水産業がどう見えているかも情報を集めていくべきかもしれない。現地調査については、農林水産業すべてにおいて家族経営、法人経営両方があり、両方をどう追っていくかが今後の課題であると感じた。草刈り問題に象徴される「水・農地問題」が農業経営そのものを圧迫し、家族経営でも法人経営においても農業を続けることを難しくさせている改めて確認させていただいた。

**委員** 現地調査では、改めて水の大切さを感じた。上流から流れてくるもの、地下から湧き出るもの、すべてを受け入れるのが海。その元になっているところでどのように水が使われているかは大切な点であり、水というキーワードで農林水産業はすべて繋がっているという視点が大事であると感じた。またP12(3)の稚魚放流の課題については、栽培漁業センターが非常に高い技術を持っていて貢献されているので、より力を入れて様々な魚種を放流できるようにすることも重要と感じた。

**委員** 「県民への農林水産物の安定供給」が、今回は基本方向3「『農』の恵みによる健康で豊かな暮らしの充実」の中にあっただことについて先ほど質問したが、これは卸売市場に焦点が当たっているためということだった。今回は基本方向1の「持続可能な農林水産業の実現」の(6)に置かれているが、P24を見ると「生産流通体制の構築」という表現になっている。これは意味合いが生産の方に近づいたので基本方向1に置かれたということか。同じく(6)にある「県民の安全・安心の確保」も、P24には「食の安全を支える生産体制が構築」とあるので、そのような意味で基本方向1に置かれたのか。

**事務局** 「安全・安心の確保」も生産で行う部分でもあり、消費者が求めている部分でもある。どちらに置くか迷っているところ。家畜防疫体制は生産側に寄っている部分があるが、農薬も使う方からすると生産側だが、食べる方からすると消費側に寄っている部分もある。書く内容によって仕分けていくしかないと考えている。難しい場合は再掲もあり得る。ただ、「(6) 県民への安定的な食料供給」は消費者側からすると安定的な提供を受けるという面があるので、基本方向3の「県民とともに育む豊かな食・暮らしの充実」においても問題ないかと思う。

**委員** 3つある基本方向はどうしても生産・産業に比重が傾くので、全体のバランスの問題として「(6) 県民への安定的な食料供給」は基本方向3の「県民とともに育む豊かな食・暮らしの充実」に移す方がいいのではないかと思う。安定的な地域食料システムをどう構築するかというテーマを立てて、基本方向3に移してはどうか。一方で、生産現場での農薬の問題などはそこは切り離して重要な問題だと思われるので、(6)の中でなくとも「(1) 地域の特色や立地を活かした持続可能な農業の展開」に入ってもいいと思うので検討してほしい。

**事務局** 推進項目の仕分けについては、畜産防疫なども含めて再度検討させていただきたい。

**委員** 前回、耕畜連携の話をしたが「(2) 需要に応える持続可能な畜産業の推進」の中に入れる対応をされたのか。

**事務局** 飼料作物の安定供給は畜産農家だけではできないため、耕畜連携で確保していく。併せて、基本方向1の推進方策(1)「①有機農業を含む環境創造型農業の推進」でも耕畜連携で入れる畜産堆肥は重要なため、ここにも記載していくイメージを持っている。基本方向2の推進方策(7)「②バイオマスの利用拡大」にも関わってくるが、

主には推進項目「(1) 地域の特色や立地を活かした持続可能な農業の展開」の「①有機農業を含む環境創造型農業の推進」と、推進項目「(2) 需要に応える持続可能な畜産業の推進」に記載していきたい。

**委員** 家畜伝染病に関しては、発生した場合は人には感染しないこと、食べても安全であることを知事会見などで発信していると思うが、現実に風評被害として影響が出る部分なので、基本方向1の中にきっちり内容を書き添えていただきたい。「(1) 地域の特色や立地を活かした持続可能な農業の展開」に入れるという意見もあったが、(1)は狭い意味での農業という分野かと思うので、別立てで入れるしかないのかと感じた。

**委員** P18の「4 水産業」、野鳥被害はあまりないと思われがちだが、ウガノリ養殖の新芽やワカメを食害している。琵琶湖の野鳥駆除の影響で淡路島に移動してきており、増えている。仮屋漁協の漁場にはアマモがたくさん生えていて小さい魚も増えやすい環境だが、小さいアジが一匹もない時期があった。漁業者の生活もかかってくる話なので、ぜひ入れていただきたい。

**委員** 多くの野鳥が海辺に来ていて、藻類、小魚、貝類の食害があるのは確かだと思うので入れてほしい。他地域が駆除すると対策していない地域に来てしまうので、全国で対応していかないといけない問題。対策していくべきだと思う。

**委員** 基本方向2の「(8) 農山漁村の維持・発展」の「①野生鳥獣の捕獲や被害対策に向けた体制づくり」に漁村も入れておくべきという意見だと思う。

**委員** 横串の話については、人材もそうだと思う。畜産に人材の観点が出てきている。人材について追加する形で推進項目の中に入れるのか、あるいは全分野に跨る共通課題として位置づけるのか、鳥獣害も含めてまとめ方を議論いただきたい。

**事務局** 担い手に関してはどの分野でも問題だと思う。項目出しをした方がいいということであれば、項目として立てていきたい。現行ビジョンであれば、畜産分野はP64～69にかけて5つの推進方策で整理している。当然、担い手についてはP27の「(2) 需要に応える持続可能な畜産業の推進」の「①環境と調和のとれた畜産技術の推進と持続可能な畜産業の実現」の中に入れるべく調整していたが、担い手確保を全分野に跨る課題として見せていく整理の仕方も可能だと思う。

**委員** 課題を抜き出してどうまとめるかは今日決めきれないと思うので、意見を出して次回までに事務局にまとめてもらうこととしたい。

**事務局** 推進方策についても抜けている点や強調すべき点、分けるべき点などのご意見があれば、対応させていただきたい。

**委員** P27の推進方策の中で県民という言葉がよく使われているが、現在の担い手、今後の担い手も県民。基本方向3「県民とともに育む豊かな食・暮らしの充実」の「県民」は担い手も含めた捉え方をしてもいいのではないか。人という視点で項目を大きく分けることでP27の表が見やすくなるのではないか。推進方策の中で「担い手の確保」に関する記載が各分野に散らばっているが、農林水産業全てにおいて担い手の確保が必要な課題である以上、扱う項目をもう少し大きくしてもいいのではないか。

**事務局** 現在、基本方向は1＝生産・産業、2＝農山漁村社会、3＝消費者も含めた県民という分け方にしているのが現状。人で分けるとなると、混乱するのではないか。現行ビジョンではスマート農業は推進項目1として農林水産業全体をまとめ、その中で業ごとに分けて書いており、今回は担い手について同様に、基本方向1の推進項目の一つとしてまとめる方法はあると思う。

**委員** 基本方向が分野を分けているだけになっている。担い手の問題、環境の問題、安

全・倫理、DXなど、分野を横断する共通課題は、新しいトピックとして考えていけないといけないところ。基本方向で頭出しして、その中に業ごとに分けて書いていくこともいいのではないかと考えた。本の構成が変わってしまうが、一つの案としてあるかと思った。行政の組織体制のこともあると思うが、担い手の問題などを分野横断的に考えるプロジェクトチームなどで対応していただければ、行政的にも対応可能なのではないかと。

**委員** 農業、林業、水産業と分けるから混乱すると思う。例えば推進項目の(1)を「地域の特色や立地を活かした持続可能な農林水産業の展開」として、その中に農業、林業、水産業の各項目を書くと漏れがなくなるのではないかと。

**事務局** 前回の答申では、分野で分けるのではなく横串で指す整理もお出しさせていただいたので、一度整理してご相談させていただきたい。

**委員** 推進項目(5)の推進方策「①ブランド化による付加価値向上」について、2016年から認証食品に取り組まれていると思うが、消費者に浸透しているか疑問。兵庫県で作られている作物だという認識しか持ってもらえていないのではないかと。認証の意味は調べればわかるかもしれないが、分かりやすく掲示等してほしい。

**委員** はばタンの認証ラベルについて学生の卒業論文でアンケート調査をしたが、兵庫県産であるという理解が一番多く、安全安心の上乗せ部分が理解されていない。調べたらホームページで説明されているが分かりにくい。対策すべきだと思うので、他の会議でもお伝えさせてもらった。

**委員** 安定的な食料供給、ローカルフードシステムをどう構築するかという視点で、兵庫県の中で流通システムの中でラベルがどう機能していくかを検討するべきではないか。東京等に売るためだけではなく、兵庫県内の流通で機能することが大事。ローカルフードシステムの中に学校教育や直売所があれば、農業サイドから学校などに対して説明ができる。地域での流通を作っていくという方向性を示して、それを担保するのがラベルだという風にした方がいいのでは。ラベルの広報やSNSに予算を使う方向になりがちなので、システムの中に位置づけていく視点が大事と思う。

**委員** はばタンの認証ラベルとは別に、全体のトレードマークになるようなものを協議されているようだ。

**事務局** 有機農産物等の流通・販売に関する検討会でそのような話をさせていただいた。個々の商品に貼るということではなく、SDGsの理念のような形で、兵庫県の農業が環境に優しい取り組みをしていることを示すようなキャッチコピーやロゴマークができないか、発信方法も含めて広報と相談しているところ。

**委員** 先ほど、基本方向を別枠において、全体を貫くこと、重要なことを分けて書いてはという話があった。地域の食料安全保障も基本法改正で強調されている部分なので、「基本方針」のような大きな目標で分けて書くところがあるなら、そこに食料安全保障という言葉を使った方がいいと思う。

**委員** 現行ビジョンのP75の5「日本海における漁業秩序の回復」というところ、韓国、北朝鮮だけでなく中国船も入ってくる。こういう命の危険を感じながら仕事をするのは良くないこと。できるだけみなさんに現状を知ってもらうことが大事だと思うので、次のビジョンにもこういう記載をしていただくことを強く望む。

**事務局** 安全体制は但馬の無線局を中心にした安全対策とっている。他府県も同様なので、広域体制での無線の管理体制は国とも話しているところ。ビジョンにも入れているが、但馬の地域PR用のパンフレットにも入れている。今後もそういったところ

を使ってPRに努めていきたい。

**委員** 漁業に限らず、農林水産業すべてに通じること。安全というどうしても消費者の安全が先に出てくるが、労働者の安全も分野関係なく重要。

**委員** 農業経営士会と女性農漁業士会の合同研修会で気象予報士でもある青年農業士が講演された。温暖化で気温が上昇していくのは間違いない。今年の米の作況にしても北海道や東北はいいが、県内では等級が1等にならないという話を聞く。技術センターで新品種を作っていると聞くと、2035年には必ず温度が上がっていくと思うので、ビジョンの中に入れていただきたい。現地調査で仮屋漁協にも行かせてもらったが、船1隻がマンションくらいかかるとも聞いたので、スマート農業も同様に経費がかかる点は課題と感じた。

**委員** 有機農業など、農業の環境負荷を減らすような「緩和」策も必要があるが、環境への「適応」もしていけないという側面もある。

**委員** 林業では若い就業者が徐々に増えているが、離職者も増えていると聞く。次の5年間は、定着率を物差しにしてほしい。人材育成が一番大変で神経を使う大変なところ。離職があると、残る人材のダメージも大きい。なぜ定着しなかったかの要因分析と対策をお願いしたい。また、林業木材関係では事業者間の連携が取れていないことが多く、お互いに疑心暗鬼がある。木育という言葉があるが、まずは業界の人間や世間の大人が分からないと伝わらない。林野庁などもあまり触れられてきていないが、いち早く踏み込んで検討してもらえないか。

**委員** 「めざす姿」の項目は、最終的なビジョンの中にこのままの形で出てくるのか。

**事務局** P27の推進項目に対応する形で、現行ビジョンでいうとP24～25のようにめざす姿が入ってくる。

**委員** 現地調査でも、人間も耐えられないほど暑いので、暑熱対策が必要という話があった。P23の「(2) 需要に応える持続可能な畜産の推進」で「牛群改良や生産技術の向上により温暖化等気候変動への対応が進む」というのは、具体的に何か考えられているのか。

**事務局** 乳牛に関しては技術センターでも暑熱に強いスリック牛の試験研究を行っている。また、今までは年間乳量が高いものが求められていたが、乳牛への負担も大きく共用期間が短くなってしまっているため、ゲノム解析により乳牛の負担を減らしつつ環境にも適応できる長命連産の方向性で取り組んでいければと思っている。

**委員** スリック牛は乳量との関係が明らかになっておらず、そもそも遺伝子を持った牛が少ないという課題がある。県の取り組みに期待したい。先日、近畿農政局の食育シンポジウムがあったが、結論の1つとしては食育を学校教育の中に組み込んでいく必要があるだろうというものだった。兵庫県はトライやるウィークなど全国的にも面白い取組をしているので、将来の職業選択の中に農業があるような対策に踏み込んでいただきたい。

**委員** 食育というと栄養教育に偏りがちだが、食農教育として生産も学べる環境を作っていくべきと思う。

**委員** 漁協の先輩方から話を聞く中で大事だと思うのは、種苗生産で新たなチャレンジができる体制づくりが早急に必要。2030年には瀬戸内海のタイは爆発的に増える可能性が高いと言われているので、タイの種苗生産を縮小し、違う魚種に変更できるよう、早急に考える必要があると思う。

**委員** 特異的にマダイは増えてきている。生態系の上位にいる魚でもあり、このまま増

やしていくのは間違った方向であると考えてる。

**委員** 昨年度からマダコの種苗生産体制ができて、放流ができた。今までは魚種を主とした放流だったが、餌環境が悪いと、残っている魚種が食べられてしまう。10年先に向けて、早々に違う魚種の選定をすることを盛り込んでほしい。

**委員** 海の環境を改善するためには、二枚貝が非常に重要だと思っている。マダイの代わりにそういった種にシフトするのは大いにありだと思う。

**委員** P27の「(7) 地域資源を活かした農山漁村ビジネスの創出」と「(8) 農山漁村の維持・発展」が攻めと守りのような形で書かれているが、領域・空間で分けるのも一つの方法と思う。草刈りなどの農地・水などは農業環境として一つの領域として考えられる。農村ビジネス、移住、交流、関係人口、ツーリズム、再生エネルギーなどは農村の暮らしの領域である。また、グローバルなシステムとローカルなシステムがあり、グローバル化の潮流のなかで、ローカルな家族経営が守れていない問題がある。両方を守っていく姿勢が大事だと思う。県はローカルシステムの維持にはとても重要なので、国の方針、市町の方針とは別に県がしっかり目を届かせていく必要があると思う。そこを県政として進めていただきたい。